会員のひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

多言語学習について

札幌市医師会

柴田（しばた）　睦郎（むつお）

病気退職後しばらく休診していましたが諸先生のおかげで体調も良くなり、札幌市の夜間休日急病センターの準夜帯の協力医として小児科を担当しています。最近は観光、滞在、留学などで外国の方々も来所しています。ナースの方々はセンター備品の翻訳アプリを使われているようですが、来られる方はスマホを上手に使い問診票を埋めておられるようです。そんな時に挨拶だけでも来所者の母国語で話せたらと思います。

若い頃、私は上司の紹介でスウェーデンに留学しました。準備として当別町のスウェーデン交流センターが札幌市内で開いていた会話講座を受講しました。初級コースのみでしたが、簡単な挨拶はできるようになりました。留学先で自己紹介を英語ではなくスウェーデン語でしたところ、一瞬、場が和んだように気がしました。ヨーロッパは多言語話者が沢山いますし、スウェーデンにはヨーロッパはもとより世界各地からの移民、留学生が大勢いました。移民の人はスウェーデンの語学研修の出席で交通費などをもらえ、帰化もしやすくなると聞きました。医師は小学校教師資格の語学試験に合格すると自国の免許が有効になるとの事でした。私自身は英語は好きで独学していましたが教養の時のドイツ語は会話が苦手でとても多言語話者にはなれそうもありませんでした。それでも、欧州12カ国語の一覧単語帳などを眺めたりはしていました。２年弱の留学を終え、帰国して道内の病院小児科に勤務しました。多言語話者や多言語学習にあこがれの気持ちを持って、語学関係の読書を楽しみました。

北海道にゆかりのある２冊の本が手元にありますのでご紹介します。

１冊目は2015年発行の講談社BLUE BACKS『50ヵ国語習得法（旧版は1994年出版の40ヵ国語習得法）』です。著者は新名美次先生です。札幌市の生まれで北大卒業後渡米しニューヨークで眼科を開業しています。この本には語学学習のヒントの他に50カ国語のアルファベット、挨拶と数詞（１から10）のリストがあります。挨拶は大体同じ配列です。発音はカナを振ってあります。挨拶は私が和訳しますと「ありがとう」、「どういたしまして」、「おはよう」、「こんにちは」、「こんばんは」、「おやすみなさい」、「さようなら」、「お元気ですか」、「おかげでげんきです」、「どうぞ」、「はい/いいえ」の順番に配列してあります。面白いのは古典語のラテン語のリストも収載されています。（最近ラテン語さんという方の書かれたSB新書で『世界はラテン語でできている』という本を読みました。最後に『テルマエ・ロマエ』のヤマザキマリさんとの対談がついていました。）続けて脱線してしまいますがチャールズ・ベルリッツ　中村保男訳　ベルリッツの『世界言葉百科（新潮選書：原題NativeTongues　平成元年８刷）』には世界一簡便な29カ国語会話表が載っています。このリストには「失礼ですが」「どうぞ」「～はどこですか？」「おいくら？」「ええ」「いいえ」「よろしい」の７文例が載っており、発音の簡単な説明が追加されています。発音記号等は書かれていません。

もう一冊の本はちくま文庫『20カ国語ペラペラ　私の外国語学習法』種田輝豊　2022年です。この本は1973年に実業之日本社から刊行されたものを文庫化したもので、やはりポリグロット（多言語話者）の黒田龍之介先生が解説をしています。私は昔読んだ覚えがあるのですが、再読したくて札幌市図書館に依頼して相互貸借をお願いして道立図書館の蔵書を読みました。その後文庫化されたので、手元に置きたいので購入しました。著者は1938年広島県生まれですが網走市に移住し、高校生（網走南が丘高校―余談ですが高校教員の亡父の初任地）の時交換留学でアメリカに留学。その頃から多国語学習をして、その後英語雑誌（The English Journal）の編集長などを経てアメリカに移住して通訳、翻訳の仕事に従事して2017年に亡くなっています。この本には多国語学習のヒントが沢山書かれていますが、リストは語群ごとの数詞と「手」を表す語の比較のみです。巻末に体験的速習術29項がありますが、達成目標が高く実践するには相当の努力が必要そうです。

実は北海道ゆかりのポリグロットの話題を選んだのには伏線があります。YouTube動画で初対面の人に相手の母語で挨拶をするKazu Languagesを楽しんでいて、彼の『ゼロから12ヵ国語マスターした私の最強の外国語習得法（SB新書653，2025年）』を購入したからです。彼は名古屋在住で北海道とは縁がないようです。

あちこち脱線しましたが、北海道に関わりのある多言語学習者である新名美次先生と種田輝豊さんを紹介しました。私の教室の山田名誉教授は退職後英語の教授をされていて趣味はロシア語とおっしゃっていました。学生時代、解剖をお習いした児玉譲次教授も、多言語学習者だったと記憶しています。

理容師さんを悩ませる髪のあれこれ

札幌市医師会
新札幌パウロ病院
高階（たかしな）　俊光（としみつ）

私の髪についての数々のエピソードを書かせていただきます。

私は身だしなみには無頓着です。頭も染めるほど髪もありません。老いというものだから仕方がないと受け入れ自然体でいます。しかし余りにも酷いので、女房から「人は外見が９割なので身だしなみは大切だよ」とよく注意されます。確かに髪を染めるだけでも男性も女性も後期高齢者の人でも実年齢より20歳くらい若く見えます。そんなんで私は何時も特に女性の年齢に騙され続けられています。仲の良い同僚の男性も髪を染めていて、「染める髪があるから染めるんだよ」と私の前でニヤリとします。

万年青年を自負する私ですが、50代に入ってからどういうわけか急に老けて見られるようになりました。

57歳の時に当院のスタッフ５、６人で名古屋の学会に行った時のことです。電車の中で子供連れのご夫婦の奥さんから初めて席をごく自然に譲られました。誰の事かとかなり迷いましたが、お礼を言って座らせていただきました。まるで注文していない料理が運ばれてきたような戸惑いでした。この時はまだ髪もあり白髪でもありませんでした。65歳の時、深川の音羽にタケノコ採りの帰りにいつも行く協和温泉で65歳以上は安くなるというので免許証を出そうとしたところ何も言わずにフリーパスでした。66歳の時、外来で年齢の話になり72歳の女性患者さんに「６歳の年齢の差がありますね」と言ったところ、「そうですか、先生は78歳ですか」と言われてしまいました。67歳の時、北海道の鉄道の全線完乗・駅舎完訪の旅で仁山駅の温泉では一瞥しただけで「お宅は安くなるよ」とぶっきらぼうに番台のおばさんから言われました。隣で後輩が笑いをこらえていました。69歳の時、外来で若い女性に年齢を聞かれて「100歳ですよ」と言うと、「うそでしょ」と返され、「実は90歳ですよ」と答えると「随分と若く見えますね」と感心していました。74歳の時、外来で90歳女性患者さんに「100歳です」と言うと、「そうですか、恐れ入ります」と納得し、また80歳の男性は「すごいですね」と感心されました。75歳の時、回診で後期高齢者の入院女性に年齢を聞かれ「100歳ですよ」と言うと、「100何歳ですか」と真顔で言われ、全く予期せぬ質問に言葉を失い病室を出てからガックリしたものです。

私の頭は今ではもう髪がポヤポヤとしか生えていません。同期会に出席すると、髪の色はともかくとして皆ふさふさしていて髪がないのは私だけでした。

夏休みに遊びに来た孫から「じいじってさ、どうして昨日も今日も少ない髪の毛、立っているの？」、「髪の毛、何個あるの？」と聞かれました。どう答えようかと思案していると、そばにいた息子が「それなら１本ずつ抜いて数えようか」と言っているのが聞こえ、さらに「おじいちゃんはつむじないもんね、あったかなぁ」と女房の声が聞こえてきました。また息子に「そろそろ床屋に行こうかな」と言うと、「へェー」と驚かされ、「お父さんだって毛があるから伸びるんだよ」と女房がフォローしてくれました。そして真顔で「髪が少なくてすぐに終わるのに料金同じなの？」と聞かれ、「かかる手間、時間は同じだよ」と答えました。

しかしながら私は自分の頭の形にはとても自信があります。年齢とともに頭頂部、前頭部の髪がなくなり、後頭部、側頭部は白髪だらけで、自慢の頭の形がますます際立ってきています。ところがそうなって良いことばかりではありません。先日床屋に行ってこんなことがありました。

私は頭の髪を一応分けています。床屋で理容師さんが私の頭頂部から前頭部にかけてクシで梳（す）いてくれていたものですから、私は謙虚に「できれば分けてください」と言うと、少々戸惑った理容師さんが「右から分けた方がいいですか、左にしますか」と言われました。「･･･」、私にしたら初めてのことで訳が分からなく、今度は控えめに「なるべく左でお願いします」と言いました。次に行った時にも続けて別な理容師さんからも同じことを言われた時には「頭の髪に聞いてくれ」と言おうとしたのですが、そこをグッと堪えました。そして「今日は左でお願いします」と言いました。

つむじのないハゲ頭なので理容師さんは右か左か困ったなのでしょう。車を運転して右に行くか左に行くかでは大違いです。理容師さんも迷いに迷って勇気を出しておっしゃったんだと思います。私のハゲ頭はご高齢の方ばかりでなく理容師さんも困惑させるようです。この話を女房にしたらプッと吹き出し笑ってくれました。ここまで読んで下さった読者の皆さんもどうぞ笑ってください。こんなこと２度も続けてありましたから、さらに３回続くのか次に行くのが少し楽しみになってきました。２度あることは３度あるのか、それとも３度目の正直か･･･。

後期高齢者の仲間入りをしてから若い時の大酒のみが祟って、自業自得ですが、サルコペニアを呈しています。通勤の地下鉄の優先席に座るような時には小生の頭が武器となり帽子を脱いだり被ったりしています。女房は「お父さんの様子を見たら優先席に座っても誰も文句言わないね」と言っています。髪のことでは理容師さんを悩ませてはいますが･･･。

趣味

北見医師会

川崎（かわさき）　和凡（かずつね）

私の二つの趣味についてお話しさせていただきます。一つ目は音楽です。音楽との出会いは昭和48年～51年ヤマハオルガン教室の幼児課程を卒業してヤマハ９級をいただいたことから始まります。その後高校時代に吹奏楽部に入部し、管を伸縮させて音程を変えるスライドに魅了されトロンボーンを担当させていただきました。中学時代は陸上部だったため全くの初心者でした。同級生は中学時代からの経験者がほとんどで練習についていくのが大変でした。２年生の時にコンクール地区大会で、いわゆるダメ金で引退しました。大学時代は野球部とブラスアンサンブル部に所属しましたが、当然強制的に野球部の活動がメインのため吹奏楽は同好会程度の活動でした。就職後28～29歳の頃、１年半ほど職場の先輩のおかげで北見交響吹奏楽団に所属し一度全道大会に参加しましたが、転勤で退団後はほとんどトロンボーンとは遠ざかっていました。しかし、2013年46歳の時にこのままでは人生あっという間に老いて終わってしまうと思い網走吹奏楽団に入団し2022年から2024年、３年連続で全道大会（キタラ大ホール）に出場し、年次順に銅、銀、金賞をいただきました。空席が目立つ薄暗い観客席に８人のプロが審査員として自分の音を聴いていると思うと気絶しそうでした。優秀な指導者や家族の支えがあっての結果と感謝しています。純正律、平均律、和音進行、長調短調それぞれ12調など、音楽大学が存在するように音楽は宇宙を含めた世の中の理を表す崇高な学問です。この世は物質も光も音もすべて波動で成り立っています。合奏などで音を合わせるときは高音（よりシャープな波）に合わせると正確ですし、手術顕微鏡も強拡大でピントがより正確になります。全道大会を目指して真夏の蒸し風呂のような練習場で約40人の男女が一生懸命ただ空気をブルブル震わせ汗だくになっている姿をみていると、ヒトの本体は肉体ではなく異次元生命体なのだとつくづく思います。ステーキや高級ワインを味わうような肉体的な快楽ではなく、音楽はより高次元な魂で味わう快楽なのだと実感します。

もう一つの趣味は将棋です。当時の職場の同僚のお勧めもあり50歳からネット将棋（将棋ウォーズ）を開始しました。７年かけてやっと昨年（2025年）２月に日本将棋連盟公認のウォーズ１級になれましたが、いまだ級位者です。実質ストリート・ファイトなのでとても緊張しますし、読み筋にない手が飛んで来たり大悪手を指して形勢が逆転した時などは激しく動揺します。そこで、冷静さを保ちつつ打開策を模索する精神力の強さと思考能力が鍛錬されます。不測の事態が発生し得る手術にも、通じるものがあります。もちろん手術に「投了」ボタンはないので将棋の方が気楽なはずですが、負けるとものすごく悔しいので十分精神力や思考力の訓練になります。昨年８月からは日本将棋連盟北見支部に所属し、有段者と対面差しもしています。対面のため相手が長考してついうっかり「ここに飛車を打たれて…」と盤の５一に指をさし、図らずもヒントをくれることもあり、対面ならではの面白さもあります。しかし、ただ木の小片（駒）を盤上でペチペチ動かすだけで肉体的には何も起きていません。そうです。これも高次元の魂の嗜みです。40の手習いではなく私の場合50の手習いですが有段者目指して研鑽していこうと思っています。

写真：左奥が筆者

画像：筆者の将棋ウォーズマイページ（2026/3/7）

「あんぱん」と鉄道
～朝ドラのちょっと不思議な楽しみ方～

函館市医師会
函館市医師会検診検査センター
水関（みずせき）　清（きよし）

2025年３月31日に放映が開始されたNHKの連続テレビ小説は、漫画家・絵本作家・詩人のやなせたかし（1919-2013）の妻、小松暢（のぶ）（1918-1993）をモデルとした、「あんぱん」であった。「男勝りの女性」を指す土佐弁である「はちきん」を冠した「はちきんおのぶ」の存在が、さまざまな職業を転々としながら定まらない人生を送っていたやなせの脱皮を促し、彼が終生にわたって追い求めた“逆転しない正義”を体現した「アンパンマン」にたどり着くまでを、夫婦それぞれの一代記として描かれていた。

「はちきん」を印象付けるためか、第１回の冒頭部から、のぶの子役は、着物姿で後方から迫るSLと競走しながら彼岸花の咲く畦道を走って「御免与」駅に向かっていた。駅の改札口で出迎えたのは、追い抜かれたSLから降り立った父親役の俳優。子役のすぐそばには、旅客運賃表が掲示された出札窓口。時代設定は1927（昭和２）年、運賃表の表題は右書き、駅名は縦書き、そして運賃も縦の漢数字である。子役がはしゃぎ回る様子が長く描写されていたため、つい運賃表の駅名に目が行く。當驛（＝御免与）の両隣は、「一宮（いっく）」と「土佐大津」。「一宮」の左隣は「高知」で、さらにその先は「旭」「朝倉」「伊野」「日下」「土佐加茂」「西佐川」「佐川」「斗賀野」「吾桑」「須崎」と続く。「土佐大津」の右隣は「土佐山田」、次いで「立田」「野市」「赤岡」「岸本」「手結」とある。このドラマの舞台は「御免与（ごめんよ）」という架空の街であるが、そのモデルは「後免（ごめん）」という、高知県南国（なんこく）市域に属する実在する町で、その代表駅は「後免駅」である。

実在するほうの「後免駅」は、JR四国の土讃線と土佐くろしお鉄道のごめん・なはり線（以下、ごめん・なはり線）の駅である。高知県の土讃線は、須崎駅からの高知線建設に始まり、1924（大正13）年３月に日下駅、11月に高知駅、1925（大正14）年12月５日に土佐山田駅まで延伸されたが、後免駅の開業は、この延伸時のことであった。「御免与驛の旅客運賃表」に掲示された高知～須崎間の駅名は、すべて実在する駅名と一致するが、不思議なのは、「高知―　一宮―當驛（＝御免与≒後免）―土佐大津―土佐山田」の駅順である。現在の駅順は、「高知―土佐一宮―土佐大津―後免―土佐山田」であり、高知―後免間にある「土佐大津」が、「旅客運賃表」では御免与（≒後免）―土佐山田間にあると表示されている。

ごめん・なはり線の開業は、2002年７月１日のことであるが、この線は前身ともいうべき存在の「土佐電気鉄道安芸線」の路盤を活用して建設された部分と、室戸岬経由で徳島県牟岐駅との間を結ぶ四国東部の循環線の一角をなすために新設された部分とからなる、「日本最後のローカル新線」と呼ばれるユニークな存在である。後免駅から、現在のごめん・なはり線の各駅をたどると「後免―後免町―立田―のいち―よしかわ―あかおか―香我美―夜須」となるが、これらはほぼ「旅客運賃表」の「土佐山田」以降に掲示された駅である。

ドラマの中で、父親は次の出張先について話す。行き先は、朝鮮の京城だという。取り出した「列車時間表」の「鐵道線路略図」には、土讃線は須崎～高知間のみで、御免与～高知間の路線は表示されていない。これとは別に、御免与から高知市内を経て西方の伊野までの路線の表示があるが、これは1925（大正14）年２月に全通した路面電車である、土佐電気鉄道線であろう。この線が掲示されているのに、同年12月に開業した高知～後免～土佐山田間が表示されていないことから、この「列車時間表」は同年２月から12月の間に発行されたことになるが、そのような古い情報での出張計画は心許ない。

その後、ドラマの場面は1936（昭和11）年に遷移して、のぶの師範学校入学が描写される。学校の寮と自宅との往復のため、御免与駅の構内がたびたび映し出される。自然と視線は、「旅客運賃表」に吸い寄せられるが、何か変である。

表題は左書きとなり、これまた左書きで「當驛からの運賃」という小題が追加されている。一覧内の駅名は横書き、運賃も横数字である。駅名一覧は賑やかさを増している。土讃線延伸のために「土佐山田」までだった駅名には、徳島県境に近い「豊永」までの６駅が追加されている。土佐電気鉄道安芸線のほうも延伸が図られ、「手結」までだった営業区間には、「安藝（あき）」までの６駅が追加されているが、いずれも歴史上の実在である。

御愛嬌なのは、この９年間に運賃が微妙に変化していることである。土讃線方面では、御免与のお隣の「（土佐）一宮」までは10銭→11銭と１銭の値上げなのに、３つ隣の「旭」までは23銭→22銭、４つ隣の「朝倉」までは28銭→27銭と各１銭値下げである。土佐電気鉄道安芸線のほうは、２つ隣の「野市」が18銭→15銭と３銭の値下げ、４つ隣の「赤岡」までは29銭→21銭と８銭の値下げ、５つ隣の「岸本」までは32銭→28銭と４銭の値下げと、多彩な大盤振る舞い？がみられる。

ドラマ制作の小道具係の仕事の詳細にまでは十分な時代考証が行き届かなかったためだろうか。あえて目くじらを立てることではないが、土讃線もごめん・なはり線も、現在でも乗車可能な貴重な鉄道路線である。土佐電鉄は「とさでん交通」と名を変えて、後免線も健在である。高知市内から後免町まで行く在来型電車の先頭部には、菱形の赤い地板に「ごめん」と大書された方向板が掲げられている。

商品化された「ごめん」という方向板型ミニタオルは、ちょっとした失敗を、笑いに包んで謝る際に活用されるという。

100kmの先にあるもの
～ウルトラマラソンと公衆衛生～

根室市外三郡医師会
北海道根室振興局保健環境部
田口（たぐち）　将人（まさと）

道内保健所で勤務しております田口将人と申します。このたび寄稿の機会をいただきましたので、私の趣味であるランニングと、現在携わっている公衆衛生の業務についてお話しさせていただきます。

皆様は、北海道に100kmを走るマラソン大会があることをご存じでしょうか。それは、サロマ湖を一周する「サロマ湖100kmウルトラマラソン（以下、サロマ）」です。

私は、医学部在学中に陸上競技部に所属したことを契機に、マラソンに取り組むようになりました。活動を重ねる中で、当時学生の中でまだ誰も挑戦していないことに挑みたいと考え、サロマ完走を目標としました。

サロマは全国からランナーが集まる人気の大会で、当時は申込開始後30分ほどで100kmの枠が埋まってしまい、挑戦を決めた2018年はエントリーすらできませんでした。翌2019年は三つのデバイスを準備して申込に臨み、ようやく100kmの出場枠を確保することができました。

サロマの制限時間は13時間と、ウルトラマラソンの中でも厳しく、入念な練習計画の作成に加え、装備や補給食の選択、ケガや天候への対策など、通常のフルマラソン以上の準備が必要となりました。独学では限界を感じていたところ、幸運にもサロマ完走を目指すランニングイベントに参加することができ、そこでプロランナーやサロマ経験者から実践的な助言を受けることができました。

サロマのコースはサロマ湖をほぼ一周します。朝５時にスタートを切ると、気持ちの良い風を受け、湖畔の雄大な自然を感じながら爽快に走ることができます。コース上には細かくエイドステーションが設置されており、54.5km地点には着替えなども可能な大きなエイドがあります。このエイドに到着する頃には気温は30度を超え、疲労困憊の中で残り約50kmの後半戦に挑んでいきます。初めて参加した2019年の大会では、両脚が何度も攣り、補給ジェルすら喉を通らなくなるほどの状態となりました。それでも、ランナー同士で励まし合い、沿道の応援に背中を押され、一つ一つの関門通過を目標に走り続けました。ゴール間際では、沿道の両サイドに並ぶ多くの人々がひとりひとりのランナーを称える声援を送ってくれます。その中で、これまでの練習の日々を振り返り、その思いを噛みしめながらゴールラインを通過する瞬間は、何度経験しても最高の瞬間です。

サロマを走ったすべての人に、それぞれの物語があります。私にとって、サロマは人生観を変え、自分をさらに強くする大きな経験となりました。今後も体力の続く限り、毎年サロマへの挑戦を続けていきたいと考えています。

さて、現在私は北海道に所属する公衆衛生医師として保健所で勤務しております。保健所の役割は、地域住民が安全で健康に生活できる環境を整えることであり、地域全体の健康を視野に入れて取り組む仕事です。いわば「地域全体を診る医師」と表現できるかもしれません。私がこの道を志したのは、医療だけでは解決できない保健医療福祉分野の課題に対して、制度や仕組みの視点から関わる必要性を感じたことが背景にあります。保健所では、政策や計画の策定に関わるほか、医療機関や自治体など多くの関係機関と連携しながら地域の課題解決に取り組みます。また、住民の声を直接聞く機会もあり、現場と政策をつなぐ役割に大きなやりがいを感じています。さらに、公衆衛生医師には全国保健所長会などを通じた全国的なネットワークがあり、自分の所属する自治体だけでなく、全国規模の行政や政策の分野で幅広い活動に関わる機会があることも魅力の一つです。

ウルトラマラソンが一歩一歩の積み重ねの先にゴールがある競技であるように、公衆衛生の仕事もまた、日々の地道な積み重ねの中に成果があります。どちらも派手さはありませんが、その積み重ねによって、地域住民が安心して健康で幸せな生活を送ることができる環境を支えているのだと感じています。本稿を通じて、医師の多様な働き方の一端を感じていただき、若い先生方が将来の進路を考える際の一つの参考になれば幸いです。

100kmの部 ゴール瞬間の１枚

ブルースリー物語　その４

帯広市医師会
帯広中央病院
吉田（よしだ）　貢（みつぐ）

ブルースリーはウォン・ジャックマンと対峙するも相手は攻めてこない。太極拳は、目にも留まらぬ速さで攻めてくる相手の技を制するため、目に頼らない「推手」という訓練法を開発し、相手と接触した部分（腕が多い）から伝わる感覚で相手の動きを察知し、その動きを制してしまう。

よって太極拳の使い手が相手の場合、十分に間合を取って、相手に接触される前に、相手の反射神経を上回る速度で、例えばムエタイのような蹴り技やストレートパンチ一発で仕留めないと難しい。

一方の詠春拳は一瞬で相手に接近して無数の短打を目にも留まらぬ速さで打ち出していくカンフーで、通常、相手は防御する間もなく、リーに顔面をボコボコに殴られて、リーの勝利が決まる。

だが今回は違った。「推手」により、リーの換手による高速の連打が封じられ（換手とは相手の防御の腕を封じた上で自分の打撃を入れること）、粘り付いた腕でバランスを崩され（纏絲勁）、関節を取られてしまう。これまで接近戦で詠春拳の技が通じなかったことはなく、また、リーが映画の中で見せた、高速のフェイントで、遠くの間合いから一気に打撃を決める技が当時のリーにはなく、離れて距離を取れば、ジャックマンを攻める手立てがない。

少林拳を破るために開発されたともいわれている太極拳の動きは、知らない者にとって、野球で例えると初めてフォークボールを見たバッターのようなもので、初手合わせでその動きを見切るのは難しい。

それでも負けず嫌いのリーは攻撃を続け、無我夢中の彼には３分程度に感じた時間だが、実際は20分ともいわれ、さすがのリーもスタミナが尽きて、試合は勝ち負けなしで終了した。だが、ジャックマンが関節技や絞め技を解放せず、また発勁を使用していれば、勝負は早々に決していたはずなのである。

一方で、観戦していたリーの生徒たちは太極拳を知らない武術の素人で、パンチやキック以外は攻撃とは認識できず、リーが一方的に攻めたが、パンチすら出せず、逃げ回るのだけが上手なジャックマンを仕留め切れず残念だったと、試合を評価していた。

試合後だが、ウォン・ジャックマンは今後も当地の武術界隈で身を立ててゆく予定だったので、リーと道場主たちの関係を忖度して、試合のことは一切口外しなかった。一方、今回の事情を知らないリーは、アクション俳優としての宣伝から、ラジオ番組で北派拳法の使い手に勝ったようにもとれる発言をしたり、武術専門雑誌にも、彼はパンチもキックも出せなかったと、自分の優勢な部分だけを述べて、ジャックマンの関節技や絞め技に関して言及しない、微妙な内容を語ってしまった。

発言だけなら無視してもいいが、文章の場合は、文章で反論しておかないと、リーの話がいずれ真実となってしまう。立場上からは、沈黙を貫きたかったジャックマンだが、かなり誤解を与える内容でもあったため、地元で最も発行部数の多い中国語新聞の第一面に、リーが武術雑誌で述べた話とは異なる内容を掲載し、「ブルースリー様、もしこの内容に異議があれば、観客を入れた公開試合をして、白黒つけましょう」と提案する記事を載せた。

一方、道場の門の鍵を閉められたことに激怒していたリーも、今回の件の背景に気付いたので、自分の勇み足を穏便に収めるには、ジャックマンの提案は完全に無視するのがよいと判断した。百戦錬磨のリーが、売られたケンカを買わなかったのは今回が初めてで、前回はジャックマンに勝つ気がなかったからだと分かったのだろう。その後のリーも、彼との件は二度と語ることがなかった。

それから３年後の1967年には、前述の嫌な思い出のあるオークランドから離れて、念願のハリウッドの所在地でもあるロサンゼルスに、自身の３番目の道場を開設したのである。

自分の武術に関してもフェンシング、ボクシング、柔道、空手、ムエタイなど、多くの格闘家との交流や自らの研鑽によって、截拳道（ジークンドー）という名のオリジナルの格闘技を確立した。つまり、ブルースリーの動きは、カンフーの代名詞のように思われているが、実はジャッキーチェンやジェットリーらが演じる中国武術の動き（換手）とはかなり異なっている。その特徴を一言で言うと、太極拳に勝つための動きであり、相手に触れる「換手」ではなく、目にも留まらぬフェイントで仕留めるのだ。

さらに截拳道はケンカの達人リーの哲学（流れる水のごとく、無為自然に動く）も凝縮されており、中国武術とは違って、決まった形（套路）が存在しない。寝技ですらOKである。ちなみに最も新しい中国武術の「意拳」にも、同じく套路がない。

1968年には、再びロングビーチ国際空手選手権大会に招待されて、弟子のダン・イノサントとともに截拳道のデモンストレーションを行っている。そこでは、当時は珍しいオープンフィンガーグローブや防具をつけて、寸止めではなく実際に打撃を当てる「自由組手」を披露した。その影響なのだろうか？寸止めだったアメリカの空手の試合は、グローブを着用し実際にお互いの打撃を当てて勝敗を決める「フルコンタクト」いわゆる“キックボクシング”に近い試合へと変化していったのである。（つづく）

走ることについて思う事

帯広市医師会
帯広市休日夜間急病センター
大野（おおの）　耕一（こういち）

昔から走ることが好きであった。高校時代に『ランナーズ』が創刊された。今では想像もできないが大通公園にテントを張って札幌マラソンに参加した人の記事が出ていた。１浪中も毎日ジョギングしており、大学は受からなくても国立競技場のランニングクラブに入ろうと決めていた。近所の複数の図書館に『奇蹟のランニング』の購入希望を出し、啓蒙活動をしているつもりであった。大学ではボートを漕いだが、走ることは続けていた。

いつしかフルマラソン、ウルトラマラソンを走るようになった。もう少しで山岳レースと思っていたがBCスキーの転倒で前十字靭帯断裂を機に神様は膝に試練を与えられた。末期OAで定年の年に右の人工膝関節置換術を受けた。主治医に術後やりたい運動リストを渡した。自転車、クロスカントリースキーまではOKはでたが、ランニングになると名医は口を閉ざした。自己責任の世界ですよね。

以下のエピソードが自分を覚醒させる。ミラノ・コルティナオリンピックでのアメリカ女子滑降選手リンゼイ・ボン。2010年バンクーバーオリンピック滑降金メダリストでありワールドカップ通算84勝のレジェンド。41歳で右の人工膝関節手術後にオリンピックに復帰出場し転倒、左下肢切断の危機にさらされた。同、パラリンピックチェアスキー選手、村岡　桃佳。これまでに４個の金メダルを獲得しており、とてつもないスピードで滑降競技を、しかも限られた条件下でチャレンジする勇気がすばらしい。でも絶対スピードが粉砕骨折につながることも知った。

極めつけの刺激は帯広厚生病院初期研修医の嶋田早紀先生の存在であった。限られた練習時間と冬季のハンディを克服し、2025年つくばマラソン優勝、2026年東京マラソンでは２時間37分台と自己ベストを更新された。都道府県女子駅伝のアンカーとして北海道を代表して走っている。帯広厚生ランナーズに所属している関係で練習会や飲み会でお話を聞く機会もあった。競技者と医師の両立はすぐれた時間管理で可能性があることを示してくれた。最近は嶋田先生繋がりの練習仲間の輪が広がり、白樺学園高校駅伝部監督や十勝陸競の方とも飲む機会がある。皆若く、気さくな人柄であまりのレベルの高さに老人を刺激するには十分である。函館のＯ先生、私は今年から走ってみようと思います。